

キルギス語とアルタイ語の基礎語彙対照

—217 項目重要基礎語彙編—

A Comparison of the Basic Vocabulary of Kyrgyz and Altai: The 217-item Basic Vocabulary List

アクマタリエワ ジャクシルク
AKMATALIEVA Jakshylyk

This paper compares the basic vocabulary of Kyrgyz and Altai, which belong to the northwestern and northeastern groups of Turkic languages, respectively. Many studies have pointed out the similarities between Kyrgyz and Altai (Baskakov 1958, 1966; Batmanov 1959, Tenišev 1997, Johanson 1998, 2021). However, we still do not know the specifics of how these two languages changed historically. Therefore, this paper presents the similarities and differences in the basic vocabulary of Kyrgyz and Altai. Our research was carried out using the Linguistic Questionnaire for Asia and Africa (2), which was developed by the Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies (1979). We focused on basic vocabulary (217 words) because it comprises fundamental words for which there are expressions in every language, such as those for “water,” “hands,” and “mountains.” It is also assumed that basic vocabulary is not borrowed and is relatively unchangeable.

キーワード： キルギス語，アルタイ語，基礎語彙

Keywords: Kyrgyz, Altai, Basic vocabulary

0. はじめに

キルギス語とアルタイ語はチュルク諸語に属する言語である。チュルク諸語はユーラシア大陸に広く分布し、一定の共通特徴をもつ。チュルク諸語は南西、北西、南東、北東の4つに分類されている。キルギス語は北西グループに属し、アルタイ語は北東グループに属している。

キルギス語とアルタイ語に互いに類似した現象が見られることは多くの研究者に度々指摘されてきている (Baskakov 1958, 1966; Batmanov 1959, Tenišev 1997, Johanson 1998, 2021 等)。

しかし、この2つの言語が歴史的にどのような変化をしてきたのか、いまだに具体的なことは分かっていない。本稿の目的は、キルギス語とアルタイ語の基礎語彙を調べ、その基礎語彙の類似点・相違点を具体的に提示することである。

1. 調査

1.1. 本稿で扱う資料

本稿では東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 (1979) 『アジア・アフリカ言語調査票 (下)』を用いることにする。この調査票は、現地において言語を調べるための調査項目を並べたものであり、調査地域は「アジア・アフリカ地域」である。調査票の全語彙リストは 2000 語彙からなるが、その語彙は段階性 A・B・C・D に分かれている。本稿では、最も重要である基礎語彙 (217 項目) を対象とする。基礎語彙とは、例えば、水、手、山などのように、どんな言語でもそれを表す言葉があるような基本的な概念である。また基礎語彙は借用されず、比較的变化しにくいと仮定される。

本稿ではアルタイ語とキルギス語の基礎語彙を収集し、類似点と相違点を見いだす。

1.2. 調査方法

まず、『アジア・アフリカ言語調査票 (下)』から 217 項目の単語をロシア語・アルタイ語の辞典 (Yudahin 1965; Čumakaev 2018) を用いてアルタイ語に翻訳した。その後、翻訳した資料をもとにアルタイ語母語話者にアルタイ語訳を見せずに、一つ一つ確認していった。アルタイ語母語話者は、Naeva Alevtina Ivanova 氏 (1972 年生まれ、キプチャク部族出身、ロシア連邦アルタイ共和国在住)、Čemčieva Aržana 氏 (1977 年生まれ、ロシア連邦アルタイ共和国出身だが、ノヴォシビルスク在住) に聞き取り調査を行った。キルギス語に関しては風間・児倉 (2015-2021) や鍛冶・アクマタリエワ・林 (2014) では基礎語彙調査が取り上げられてはいるが、本稿では新たに Isaev Talgar 氏 (1980 年生まれ、キルギス共和国ナルン州コチコル市出身) に最終的に確認していただいた。

2. 両言語の表記

本稿では、文書編集の都合上ラテン文字を使用した。それぞれの言語表記の詳細は次の通りである。

2.1. キルギス語の文字表記

キルギス語の文字表記は 36 字で、本稿で用いる表記は次の通りである。

[表1] キルギス語の文字

キリル文字	ラテン文字	発音
Аа	a	[ɑ]
Бб	b	[b]
Вв	v	[v]
Гг	g	[g], [ɣ]
Дд	d	[d]
Ее	e	[e]
Ёё	yo	[jo]
Жж	j	[dʒ]
Зз	z	[z]
Ии	i	[i]
Йй	y	[j]
Кк	k	[k], [q]
Лл	l	[l]
Мм	m	[m]
Нн	n	[n]
ң	ŋ	[ŋ]
Оо	o	[o]
Өө	ö	[œ]

キリル文字	ラテン文字	発音
Пп	p	[p]
Рр	r	[r]
Сс	s	[s]
Тт	t	[t]
Уу	u	[u]
Үү	ü	[y]
Фф	f	[f]
Хх	x	[x]
Цц	ts	[ts]
Чч	č	[tʃ]
Шш	š	[ʃ]
Щщ	šč	[ʃ]
ъ		
Ыы	ı	[ɯ]
ь		
Ээ	ě	[e]
Юю	yu	[ju]
Яя	ya	[ja]

2.2. キルギス語の母音と子音

キルギス語には a, i, e, i, o, u, ö, ü の 8 つの短母音がある。また長母音は、aa, ee, oo, uu, öö, üü の 6 つで、i と i には長母音がない。以下の表 2 に短母音と長母音で意味が異なる例を挙げておく。

[表 2] キルギス語の短母音と長母音の例

短母音	例	長母音	例
jan	命	jaan	雨
er	勇者	eer	鞍
tok	電流	took	鶏
kur	ベルト、帯	kuur-	炒めろ
sök	叱れ	söök	骨
jündü	毛を	jündüü	毛深い

また、キルギス語では母音調和と呼ばれる母音の順行同化が存在する。

次に、キルギス語の子音には有声子音、無声子音が存在する。詳細は次の通りである。

[表 3] キルギス語の子音

有声子音	б	в	г	д	ж	з	й	л	м	н	ң	р
	[b]	[v]	[g/ɣ]	[d]	[dʒ]	[z]	[j]	[l]	[m]	[n]	[ŋ]	[r]
無声子音	к	п	с	т	ф	х	ц	ч	ш	щ		
	[k/q]	[p]	[s]	[t]	[f]	[x]	[ts]	[tʃ]	[ʃ]	[ʃʃ]		

キルギス語では、в, ф, ц, щ は主に借用語で用いられる。

2.3. アルタイ語の文字表記

アルタイ語の文字表記は 37 字である。キルギス語に比べ、アルタイ語の場合、1 文字多い。キルギス語の ж に対して、アルタイ語では音声上の違いにより、j と ж に書き分けられている。アルタイ語の j[dʒ] は、jol 「道」、əje 「姉」などのように語頭、語中いずれに使われる。一方の ж[z] は語中に使用されることが多い（例：кижи 「人」）。また借用語の語頭にも使われる（例：жюри 「審査」）。

[表4] アルタイ語の文字

キリル文字	ラテン文字	発音
Аа	a	[ɑ]
Бб	b	[b]
Вв	v	[v]
Гг	g	[g], [ɣ]
Дд	d	[d]
Јј	j	[dʒ]
Ее	e	[e]
Ёё	yo	[jo]
Жж	ž	[ʒ]
Зз	z	[z]
Ии	i	[i]
Йй	y	[j]
Кк	k	[k], [q]
Лл	l	[l]
Мм	m	[m]
Нн	n	[n]
ң	ŋ	[ŋ]
Оо	o	[o]
Ӗӧ	ö	[œ]

キリル文字	ラテン文字	発音
Пп	p	[p]
Рр	r	[r]
Сс	s	[s]
Тт	t	[t]
Уу	u	[u]
Ӱӱ	ü	[y]
Фф	f	[f]
Хх	x	[x]
Цц	ts	[ts]
Чч	č	[tʃ]
Шш	š	[ʃ]
Щщ	šč	[ʃʃ]
ь		
Ыы	i	[ɯ]
ь		
Ээ	ě	[e]
Юю	yu	[ju]
Яя	ya	[ja]

2.4. アルタイ語の母音と子音

アルタイ語の母音には短母音と長母音が存在する。短母音は a, i, e, o, u, ö, ü の 8 個である。アルタイ語の場合、これらの短母音に対応する長母音 aa, iï, ee, ii, oo, uu, öö, üü が使用される。以下の表 5 にアルタイ語の短母音と長母音で意味が異なる例を挙げておく。

[表 5] アルタイ語の短母音と長母音の例

短母音	例	長母音	例
kan	血	kaan	王さま
iris	幸せ	korir-	守る
er	勇者	eer	鞍
kir	埃	jiit	若い
ot	火	sook	寒い
ulus	人々	juu	戦争
özök	谷	örgöö	殿堂
kün	太陽	küün	希望

また、アルタイ語にも母音調和と呼ばれる母音の順行同化現象がみられる。

次に、アルタイ語の子音には有声子音と無声子音が存在する。詳細は次の表の通りである。

[表 6] アルタイ語の子音

有声子音	б	в	г	д	ј	ж	з	й	л	м	н	п
	[b]	[v]	[g/ɣ]	[d]	[dʒ]	[ʒ]	[z]	[j]	[l]	[m]	[n]	[ɲ]
無声子音	к	п	с	т	ф	х	ц	ч	ш	щ		
	[k/q]	[p]	[s]	[t]	[f]	[x]	[ts]	[tʃ]	[ʃ]	[ʃʃ]		

アルタイ語でもキルギス語と同様に в, ф, ц, щ は主に借用語で用いられる。

3. 調査結果

今回の調査結果は次の表1の通りである。二重丸 (◎) は、キルギス語とアルタイ語の語彙が完全一致する項目を指し、丸 (○) は、キルギス語とアルタイ語の語彙が不完全一致を示す場合、すなわち同源語であるが、若干音声上の相違点がみられる場合、そして、三角 (△) は一致する語彙があるものの、意味上のずれがみられる場合を指す。最後に、×印は、両言語において全く異なる語が使用される場合を付す。

なお、本稿で取り上げる分類の名づけ (人体、家族、数・時、自然、生き物、食、物、事) は本稿独自の名づけであり、筆者によるものである。『アジア・アフリカ言語調査票

(下)』の分類名ではないので、ご注意ください。

[表7] 調査結果の詳細

分類		◎完全一致	○不完全一致	△意味上のずれ	×不一致
人体	47	32	12	2	1
家族	18	8	7	3	0
数・時	35	22	5	3	5
自然	44	17	10	7	10
生き物	16	11	3	0	2
食	10	3	2	1	4
物	42	21	7	3	11
事	5	2	0	0	3
	217	116	46	19	36

以下、一致率が高かった順に語彙を具体的に提示していく。

3.1. 「人体」を表す語（全47項目）

今回の調査資料のうち、最も一致した語が多いグループは「人体」に関する基礎語彙で、全部で47項目である。そのうちから32項目はキルギス語とアルタイ語で全く同じ語彙が使用されることが分かった。また、同源語であることは明らかだが、音声上の違いがみられる語彙は12項目あった。一方、不一致の項目は一つもなかった。以下、そのリストを提示する。

[表8] 完全一致語彙（◎32項目）

日本語	アルタイ語	キルギス語
頭	baş	baş
髪、髪の毛	čač / kıl	čač / kıl
額	maṅday	maṅday / čeke
耳	kulak	kulak
唇	ėrin	ėrin
舌	til	til

キルギス語とアルタイ語の基礎語彙対照

歯	tiš	tiš
顎	ěək	ěək
頬	jaak	jaak
顔	čiray / jüs	čiray / bet
喉	tamak	tamak
肩	iyin	iyin
背中	arka	arka
腰	bel	bel
尻	köčük	köčük
胸	töš	töš
乳、乳房	ëmček	ëmček
腹	ič	ič
臍	kindik	kindik
腕	kol	kol / bilek
手	kol	kol
爪 [人、動物の]	tirmak	tirmak
足	but	but
膝	tize	tize
汗	ter	ter
垢	kir	kir
膿	iriŋ	iriŋ
毛 [人間の体毛]	čač / kıl / tük	čač / kıl / jün / tük
血	kan	kan
骨	söök	söök
肉	ět	ět
涙	jaš	jaš

[表 9] 不完全一致（同源語だが音声上の違い有り）（○12 項目）

日本語	アルタイ語	キルギス語
目	kös	köz
鼻	tumčuk	murun / tumšuk
口	oos	ooz
唾	čelekey	šilekey

髭	sagal	sakal / murut
首	moyin	moyun
肝臓	buur	boor
心臓	jürek	jürök
腸	ičege	ičegi
皮膚、皮、肌	tere	teri
脂、脂肪	üs / sarju	uz / sarı may
肘	čaganak / čaŋčak	čikanak

表9の項目をみると、同源語ではあるものの、音声上、若干違いがあることが分かる。例えば、キルギス語では語末において有声音 *z* で現れる歯茎摩擦音が（例：köz「目」、ooz「口」）、アルタイ語では無声音 *s*（例：kös「目」、oos「口」）で現れる。

また、キルギス語で無声摩擦音の *š*（例：tumšuk「嘴」、šilekey「唾」）が、アルタイ語では無声破擦音の *č*（例：tumčuk「嘴」、čilekey「唾」）に対応する場合がみられる¹。しかし、キルギス語の無声破擦音 *č*（例：ičegi「腸」、čikanak「肘」）は、そのままアルタイ語でも *č* で現れている（例：ičege「腸」、čaganak「肘」）。

長母音は、完全一致する語も多いが（例：čëk「顎」、söök「骨」）、アルタイ語の buur「肝臓」に対して、キルギス語は boor「肝臓」のように一致しない語もある。

[表10] 一致する語彙はあるが意味上のずれ有り（△2項目）

日本語	アルタイ語	キルギス語
眉、眉毛	kabak	kaš (cf. kabak「臉」)
体、肉体	ėdi-söögi / ět-söök	dene (cf. et「肉」、söök「骨」)

「人体」を表す語彙の中には2つの項目がアルタイ語とキルギス語においては使用方法が異なる。アルタイ語では kabak は「眉毛」を表すが、キルギス語では厳密に言えば、kabak は「臉（まぶた）」を表し、「眉毛」は kaš という語が使われる。

またアルタイ語では「体」という意味として ět-söök が使われるようだ。この ět「肉」と söök「骨」という語はキルギス語にも存在する。ただし、アルタイ語のように「体」という意味で使われず、代わりにペルシア語からの借用語 dene が使われる。

¹ キルギス語の *š* が常にアルタイ語の *č* に対応するわけではなく、単音節語の語末では *š-š* で対応する（例：beš「五」、jaš「年齢」、taš「石」、kuš「鳥」）。

[表 11] 不一致 (×1 項目)

日本語	アルタイ語	キルギス語
指	sabar	manja

「人体」を表す語の中から「指」という語のみキルギスとアルタイ語は一致しなかった。各言語に全く異なる語が使用されている。ちなみに、sabar はモンゴル語では「手のひら」を表すようだ。

3.2. 「家族」を表す語 (全 18 項目)

ここでは「家族」に関する基礎語彙 18 項目を見る。全体的にみると、この 18 の項目は、どちらの言語にも存在し、ほぼ同じような使い方をする。ただし、それぞれの言語の音韻論的な特徴により、発音上の違いが見られる。

[表 12] 完全一致 (◎8 項目)

日本語	アルタイ語	キルギス語
夫	ēr/ ěr kiži	ēr / küyöö
母	ěne	ěne
息子	uul	uul
子 [人間の子]、子供	bala	bala
子 [動物の子]、子供	küčük, kulun	küčük, kulun
兄	aka / aga	aka / aga
姉	ěje	ěje
兄弟	akalar, karındaštar, aka-karındaštar	akalar / agalar

[表 13] 不完全一致 (同源語だが音声上の違い有り) (○7 項目)

日本語	アルタイ語	キルギス語
父	ada	ata
祖母	jaana / tayna/ taay ěne	tayene / tayna / čoŋ ěne
娘	kīs	kīz
祖父	tayda / taay ada/ ulu ada	čoŋ ata / tay ata / tayta
弟	iyin / karındaš	ini

妹	sīyīn / karīndaš	siṅdi / karīndaš
姉妹	ěje / sīyīn / ěje-sīyīndar	ěje-siṅdi

アルタイ語の「祖母」、「祖父」を表す語彙はコンサルタントによると、元々は *taay ěne* 或いは、*taay ada* のように使用されていたようだが、次第に *tayna* や *tayda* のように縮んで使用されることが多くなったようだ。また、地域によって使い方は異なるようで、今後、更なる調査が必要である。

[表 14] 一致する語彙はあるが意味上のずれ有り (△3 項目)

日本語	アルタイ語	キルギス語
妻	üyi / üy kiži	ayal
孫	uulinīn uulī	nebere / uulunun uulu
家族	bile	üy bülö / bülö

アルタイ語の *üy kiži* は直訳すると「家の人」になるが、アルタイ語では「妻」という意味で使用される。一方のキルギス語では、*üy kiži* と言われても、「家の人」という風にそのまま解釈できるものの、「妻、配偶者」という意味では使用されない。

また、「孫」はアルタイ語では、*uulinīn uulī* 「息子の息子」という語が使われる。キルギス語でも同じような使い方はする。しかし、*uulunun uulu* 「息子の息子」より、*nebere* 「孫」という一単語で使用されることが一般的である。

アルタイ語の場合、*bile* と使われているが、キルギス語の場合、*üy bülö* が使われ、「家の者」という風に使われる。

ここで両言語に共通して現れる *karīndaš* という語についても触れておく。そもそも *karīndaš* の同源語は多くのチュルク諸語に存在する。まず、*karīn* は母親のお腹の中、つまり、胎内を意味する語である。この *karīn* 「母胎」に接尾辞 *-daš* が後続されると、*karīndaš* になり、「同じ母胎同士」という意味になる。つまり、性別を問わず、文字通りに同じ母胎から出た者同士と言う意味になる。アルタイ語の場合、正にこの意味の通りに使用され、男女を問わず、兄弟の場合も、姉妹の場合も、*karīndaš* だけで十分に通じる。一方、現代キルギス語では *karīndaš* は男の兄弟から見た「妹」を指すことが一般的である。このような意味の変化はなぜ起こっているのか、非常に興味深い点でもある。

3.3. 「数・時」を表す語 (全 35 項目)

「数・時」を表す 35 項目のうち、22 項目が一致する。そして、「今」、「少し」という語

においては使用方法が微妙に異なる。

[表 15] 完全一致 (◎22 項目)

日本語	アルタイ語	キルギス語
一	bir	bir
二	eki	eki
三	üč	üč
四	tört	tört
五	beš	beš
六	altı	altı
七	jeti	jeti
十	on	on
いくら	kanča	kanča
いくつ	kanča	kanča
半分	jarım	jarım
年齢	jaš	jaš
月	ay	ay
年	jıl	jıl
朝	tañ erteñ	tañ / erteñ menen
晩、夜	tün	keč / tün
明日	erteñ	erteñ
今日	bügün	bügün
何時	kačan	kačan
何時 [時間]	saat kanča	saat kanča
時間、時	saat	saat / ubakıt
回	kat	jolu, kat

[表 16] 不完全一致 (同源語だが音声上の違い有り) (○5 項目)

日本語	アルタイ語	キルギス語
八	segis	segiz
九	togus	toguz
二十	jirme	jıyırma
百	jüs	jüz

昨日	keče	kečee
----	------	-------

3.1でも触れた通り、キルギス語の語末では有声で現れる歯茎摩擦音 z が(例:segiz「八」、toguz「九」、jüz「百」)、アルタイ語では無声音 s で現れる(例:segis「八」、togus「九」、jüs「百」)。

[表 17] 一致する語彙はあるが意味上のずれ有り (○3 項目)

日本語	アルタイ語	キルギス語
今	ěmdi / ěmi	azır / ěmi
若干	bir kanča	bir az
昼間	kün	kündüz / tüš

「今」ということを表すアルタイ語の ěmdi / ěmi は、キルギス語でも使用される。しかし、キルギス語の場合、azır という語の方が日常会話では多く使用される。

アルタイ語の bir kanča という語に対し、キルギス語の場合、bir az が使用される。kanča はキルギス語にも存在するが、「いくつ」という疑問詞として用いられる。

「昼間」を表すのにアルタイ語で kün という語は使われるが、キルギス語では күн という語は「日、太陽」の場合に使用される。キルギス語で「昼間」を表す場合、күндүз / түш という語が使用される方が一般的である。

[表 18] 不一致 (×5 項目)

日本語	アルタイ語	キルギス語
毎日	kažila kün	kününö
週	nedele	žuma
夕暮れ、夕方	eñir / bozom	kečkurun / kečinde
全部	bastıra / üze	baarı / büt
数	too	san

「数」を表す語のうちの 5 項目は各言語において、全く異なる語が使われる。一つの原因は借用語の使用である。例えば、「週」を表す場合、アルタイ語ではロシア語からの借用語 nedele が使用され、キルギス語ではアラビア語からの借用語 žuma が使用されている。またアルタイ語ではモンゴル語からの借用語 too 「数」が使用されている。

その他の語もおそらく周辺言語の影響の可能性も否定できない。今後、詳細に調べる必

要がある。

3.4. 「自然」を表す語（全 44 項目）

「自然」を表す語は 44 項目あったが、そのうち、17 項目が一致する。また、7 項目が文語には存在するものの、使用法に差異がある。ただし、全く一致しない語が 10 項目にも上る。

[表 19] 完全一致（◎17 項目）

日本語	アルタイ語	キルギス語
葉	jalbīrak	jalbīrak
湖	köl	köl
水	suu	suu
川	suu	suu, dariya
石	taš	taš
土	jer	jer, topurak
灰	kül	kül
火	ot	ot
曇	bulut	bulut
霧	tuman	tuman
雪	kar	kar
太陽	kün	kün
月	ay	ay
日	kün	kün
野、野原	talaa	talaa
池	kölmö / kičine köl	kölmö
煙	iš	iš / tütün

[表 20] 不完全一致（同源語だが音声上の違い有り）（○10 項目）

日本語	アルタイ語	キルギス語
井戸	kutuk	kuduk
枝	budak	butak
実	üren / kuzuk	ürön / jemiš
種子、種	üren	ürön / tukum

平野、平原	tüs ĵer	tüz ĵer / tüzöŋ
雨	ĵaŋmır / ĵaaš	ĵamgır / ĵaan
星	ĵıldıs	ĵıldız
影	kölötkö	kölökö
山	tuu	too
氷	mus / tooš / möŋkü	muz/ möŋgü

[表 21] 一致する語彙はあるが意味上のずれ有り (△7 項目)

日本語	アルタイ語	キルギス語
茎	sap	sabak
花	čeček	gül
樹皮	kırtıš	kabık
風	salkın	šamal
草	ölöŋ	čöp
幹	budak	söŋgök
空	teŋeri / teŋri	asman / teŋri

アルタイ語で使用されている語彙はいずれもキルギス語には存在する。しかし、アルタイ語と異なる意味で使われる。例えば、「樹皮」を表すアルタイ語の *kırtıš* という語は、キルギス語では、「樹皮」を表すのではなく、地球の「地殻」を表す。次に「風」を表すアルタイ語の *salkın* は、現代キルギス語では「風」ではなく、「涼しい」という意味を表し、形容詞として使用される。アルタイ語の *budak* は「幹」を表すのに対し、キルギス語では「枝」を表す。このように一致する語彙はあるものの、意味上のずれが生じている。

[表 22] 不一致 (×10 個)

日本語	アルタイ語	キルギス語
木	agaš	darak
根	tazıl	tamır
林	aral	tokoy
森	arka / ĵiš	tokoy
海	talay	deŋiz
島	ortolık	aral
埃	tobırak / toozın	čaŋ

虹	solojī	asan-ūsön
水田	ris jalarj	kürüč talaasī
砂	kumak	kum

不一致の項目は意味分類のうち最も多く 10 項目である。興味深いのは、アルタイ語で使用される aral「林」はキルギス語では「島」を表す。或いは、アルタイ語で tobīrak「埃」はキルギス語では「土」を指すことになる。

3.5. 「生き物」を表す語（全 16 項目）

「生き物」を表す語は全部で 16 項目あったが、そのうち 11 項目が一致する。ただし、一致しない語が 2 項目である。

[表 23] 完全一致（◎11 項目）

日本語	アルタイ語	キルギス語
鳥	kuš	kuš / čimčik
牛	uy / buka	uy / buka
蛇	jīlan	jīlan
虫	kurt	kurt
蠅	čimīn	čimīn
魚	balīk	balīk
羊	koy / irik	koy / irik
馬	at	at
豚	čočko	čočko
動物	mal	mal / janībar
貝	krab	krab

[表 24] 不完全一致（同源語だが音声上の違い有り）（○3 項目）

日本語	アルタイ語	キルギス語
犬	iyt	it
虱	biyt	bit
蟻	kīmīska / čimalī	kumurska

アルタイ語の iyt「犬」や biyt「虱」に対して、キルギス語の場合、it「犬」や bit「虱」

のように y が脱落している。

[表 25] 不一致 (×2 項目)

日本語	アルタイ語	キルギス語
蚊	tomonok	čirkey
蚤	sekirtkiš	bürgö

3.6. 「食」を表す語 (全 10 語彙)

ここでは「食」を表す語をみると、全部で 10 項目あったが、そのうち 3 項目が一致するのに対し、4 項目が一致しない。

[表 26] 完全一致 (◎3 項目)

日本語	アルタイ語	キルギス語
肉	ět	ět
卵	ǰimirtka	ǰumurtka
粉	porošok	porošok

[表 27] 不完全一致 (同源語だが音声上の違い有り) (○2 項目)

日本語	アルタイ語	キルギス語
酒	arakı	arak
塩	tus	tuz

[表 28] 一致する語彙はあるが意味上のずれ有り (△1 項目)

日本語	アルタイ語	キルギス語
食べ物、食物	kursak	tamak

「食べ物」を表すアルタイ語の kursak はキルギス語にも存在する。しかし、キルギス語の場合、kursak は「人のお腹」を指す場合にのみ使用され、「食べ物」を表さない。

[表 29] 不一致 (×4 項目)

日本語	アルタイ語	キルギス語
米	ris	kürüč
味	amtan	daam

鶏	takaa	took
油	sarju	sari may

3.7. 「物」を表す語（全 42 項目）

「物」を表す語は全部で 42 項目あったが、そのうち 21 項目が完全一致する。ただし、一致しない項目が 11 項目もあり、借用語が目立つ。

[表 30] 完全一致（◎21 項目）

日本語	アルタイ語	キルギス語
匂い、香り	jit	jit
翼、羽	kanat	kanat
巣	uya	uya
小刀、ナイフ	bicak	bicak
刀	kilic	kilic
矢	jaa	jaa
糸	ucuk	jit / ucuk
針	iyne	iyne
着物、衣服	kiyim	kiyim
尻尾、尾	kuyruk	kuyruk
動物の毛	cač / kil / tuk	cač / kil / jun / tuk
袋	taar baštik	kap / baštik / taar baštik
釜	kazan	kazan
鍋	kazan / ayak	kazan / kazan-ayak
家、住居	uy / ayil-jurt	uy / ayil-jurt
船、船舶	keme	keme
金、金銭	akča	akča
道	jol	jol
瓶	kuvšin / vaza	karapa / vaza
壺	goršok	karapa / goršok
車	mašina	mašina

[表 31] 不完全一致（同源語だが音声上の違い有り）（○7 項目）

日本語	アルタイ語	キルギス語
嘴	tumčuk	tumšuk
角	müüs	müyüz
刃	miis	miz
毛皮	baalu teri	baaluu teri
扉、ドア	ěžik	ěšik
穴	težik, žirtik	tešik, žirtik
紐	buuš	boo

アルタイ語の語中の有声歯茎摩擦音 ž（例：ěžik「ドア」、težik「穴」）に対して、キルギス語では無声の š（例：ěšik「ドア」、tešik「穴」）が対応している。

[表 32] 一致する語彙はあるが意味上／使用上のずれ有り（△3 項目）

日本語	アルタイ語	キルギス語
物	neme	buyum / neme / nerse
薬	ěm	darī / ěm
弓	saadak	žaa / saadak

アルタイ語の neme「物」、ěm「薬」、saadak「弓」はキルギス語でもあるが、日常生活では使用頻度が低いと思われる。

[表 33] 不一致（×11 項目）

日本語	アルタイ語	キルギス語
タバコ	taŋkī	tameki
羽毛	taakī	kanat
棒	agaš	tayak
槍	žida	nayza
紙	čaazīn	kagaz
網	šuun	tor
綱	buu / kanat	arkan
屋根	erlen	üydün töböšü / kriša
窓	köznök	tereze

橋	kür	köpürö
壁	stene	dubal

3.8. 「事」を表す語（全5項目）

ここでは「事」を表す語をみると、全部で5項目あったが、そのうち3項目が一致しない語である。

[表 34] 完全一致（◎2項目）

日本語	アルタイ語	キルギス語
病気	ooru	ooru
仕事	iš / kerek	iš

[表 35] 不一致（×3項目）

日本語	アルタイ語	キルギス語
傷、怪我	širka / balu	žara
獵	aŋdaar	aŋ / mergenčilik
結婚	bile	bülö / nike

以上、アルタイ語とキルギス語の基礎語彙を細かく提示した。その結果、両言語の重要基礎語彙 217 語のうち、完全一致した語が 116 項目、同源語だが、音声上の違いがある不完全一致は 46 項目、一致する語彙はあるが意味上または使用上のずれが有るのは 19 項目、不一致が 36 項目である。今回、対象となった基礎語彙を比較した結果から言えることは、アルタイ語とキルギス語の基礎語彙はきわめて類似するということである。完全一致と不完全一致を合わせると、217 項目のうちの 161 項目で、全体の 4 分の 3 にあたる。また、意味上のずれがみられる語彙もあることを指摘した。

4. おわりに

本稿ではアルタイ語とキルギス語の基礎語彙 (217) を対象に語彙対照を行った。これらの基礎語彙リストから分かる通り、最も重要で最も基礎的な語彙であり、ほとんどが名詞に限られている。このことも関連しているのか、今回の調査では両言語には類似する語彙が目立った。

今後の方向として、名詞に限らず、形容詞、副詞、動詞といった他の品詞にまで広げ、調査対象を量的に増やし、両言語の類似性と相違点を正確に見いだすことが必要であり、今回の調査はあくまでも語彙対照研究の第一歩に過ぎない。

謝辞

本研究は、科研費（研究課題 18H03578、21J40129、21H04346）及び東京外国語大学 AA 研の共同研究課題「チュルク諸語における情報構造と知識管理—音韻・形態統語・意味のインターフェイス—」による成果の一部である。最後に、コメントくださった方々、ご協力くださった言語コンサルタント方々に感謝を申し上げる。

参考文献

- Baskakov, Nikolay Aleksandrovič. (1958) *Altayskiy yazik*. Moscow: Nauka.
- Baskakov, Nikolay Aleksandrovič. (1966) *Altayskiy yazik. Yazyki narodov SSSR*. Tom 2. 506-524. Moscow.
- Batmanov, Igor' Alekseevič. (1959) *Nekotorie lingvističeskiye dannie k etnogenezu kirgizskogo naroda. Trudi kirgizskoy arheologo-etnografičeskoj ekspedicii*. Frunze.
- Čumakaev, Aleksey Eduardovič. (eds.) (2018) *Altaysko-russkiy slovar'*, Gorno-Altaysk.
- Johanson, Lars. (1998) *The History of Turkic*. In Lars Johanson and Éva Ágnes Csató (eds.), *The Turkic Languages*. 81-125. London, New York: Routledge.
- Johanson, Lars. (2021) *Turkic (Cambridge Language Surveys)*. Cambridge University Press.
- Tenišev, Edgem Rahimovič. (1997) *Yaziki mira. Tyurkskiye yaziki*. Biškek.
- Yudahin, Konstantin Kuz'mič. (1965) *Kirgizsko-Russkiy slovar'*. Moskva: Izdatel'stvo Sovetskaya enciklopediya.
- 『アジア・アフリカ言語調査票（下）』（1979）東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- 風間伸次郎・児倉徳和（2015-2021）「チュルク諸語対照基礎語彙」<https://turkbv.aa-ken.jp/>
- 鍛冶広真・アクマタリエワ ジャクシルク・林徹（編著）（2014）『キルギス語基礎語彙集：言語調査実習の報告』（Contribution to the studies of Eurasian languages series, 19）、東京大学人文社会学研究科・文学部言語学研究室.